

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和07年04月01日

計画の名称	(第2期)安心して快適に暮らすことができる市街地の形成													
計画の期間	令和02年度～令和06年度(5年間)											重点配分対象の該当		
交付対象	奈良市													
計画の目標	本市においては、秩序ある市街地整備により、スプロール化を防ぎ、安全で良好な住宅地の形成を進めている。ＪＲ関西線により分断され、大部分が農地であったＪＲ奈良駅南地区では、ミニ開発による宅地が混在するスプロール状態になりつつあり、連続立体事業とともに土地区画整理事業によって、公共施設の整備を行い良好な居住環境を創造する。													
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)		1,617	A	1,561	B	0	C	56	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	3.46	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H30末	R4末	R6末
1	道路・公園等の公共施設を整備し、良好な居住環境を創造することで宅地の利用増進を図り、居住人口を増加する。 地区内の居住人口を集計する。	630人	730人	830人
2	道路・公園等の公共施設を整備し、良好な居住環境を創造することで宅地の利用増進を図り、居住人口を増加する。 防犯安全度=照明施設の設置道路延長÷地区内の全道路延長	56%	64%	73%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
市街地整備事業	A13-001	市街地	一般	奈良市	直接	奈良市	-	-	J R 奈良駅南特定土地区 画整理事業	都市再生区画整理 A=14.6ha	奈良市	■	■	■	■	■	987		-	
												小計						987		
											合計						987			

C 効果促進事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
市街地整備事業	C13-001	市街地	一般	奈良市	直接	奈良市	-	-	公園施設整備事業	公園施設（遊戯施設）の整備 4公園	奈良市	■	■	■	■	■	24		-
		JR奈良駅南特定土地区画整理事業（A13-001）の基幹事業対象外施設を一体的に整備することで、公園施設の充実を図り、多世代の住民が安心して交流できるまちの拠点づくりを推進する。																	
	C13-002	市街地	一般	奈良市	直接	奈良市	-	-	耐震性防火水槽整備事業	耐震性防火水槽の整備 2箇 所	奈良市	■	■	■	■	■	32		-
		災害時の防災活動拠点となる都市公園と一体的に耐震性防火水槽を整備することで、さらにその公園の持つ防災機能は高まり、災害に強いまちづくりを促進する。																	
											小計						56		
											合計						56		

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

奈良市都市整備部駅周辺整備事務所で実施

事後評価の実施時期

令和7年度

公表の方法

奈良市ホームページで公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

・事業区域内の面整備を効果的に進めることができたことで、住環境が向上し、居住人口の目標値を大幅に上回る結果となった。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

・都市計画道路や区画道路の整備が進捗したことで、狭隘道路が減少し、生活環境や防災機能が改善された。

○特記事項（今後の方針等）

次期計画の定量的指標における目標値を達成できるよう、引き続き業務の推進を図る。

○ 目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1			
	最 終 目標値	830人	事業区域内の面整備を効果的に進められたことで、宅地の利用増進を想定以上に図ることができ、居住人口が増加した。
	最 終 実績値	1136人	
2			
	最 終 目標値	73%	面整備を優先して進めたことで、照明施設の設置が後回しになった。
	最 終 実績値	60%	